

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況		実践状況 次ステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ローマンうえだの理念を基本とし、事業所独自の理念を作成し、それに基づいた4つのケア方針を重視した生活支援を行っている。		法人全体の理念を基にグループホーム独自の理念から、基本方針4つを掲げて、日頃から職員の目につく事務所等に掲示し、安心と寛ぎのある自立生活を支援したケアに努めていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月1回、地域の健康教室へ参加し、地域の方との交流を図っている。又、運動会等の地区行事や草刈り、環境整備などの活動へ参加している。普段から、近所のお宅のお庭見学、散歩、買い物などの触れ合いがある。又、夏祭りを開催し、地域の方々との交流を深めている。今年度は、コロナ禍のため活動が制限されている。		地元豊里地区出身の管理者をはじめ、地元の職員も配置し、回覧板で地区の行事を把握し、草刈りなどの環境整備や、コロナ禍前には色々な行事にも参加するなど、地域交流に努めていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議、ボランティア、視察等、認知症についての啓発に努めている。人材育成として実習生の受け入れを行っている。又、地域包括ケア会議へ出席し地域との連携を図っている。		/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、入居者の生活の様子、健康状態、ヒヤリハットや事故の報告を行い、家族や行政、自治会長、福祉・健康推進委員等から意見を頂き話し合い、サービスの向上に努めている。今年度はコロナ禍のため開催が制限された。会議の代わりに文書や広報でお伝えした。		定期的に行っていた運営推進委員会は、コロナ禍の為開催できず、文書で通知してグループホームの近況報告を伝えていました。今年の5月からは、密対策として地元の公民館をお借りして会議開催を計画し、利用者代表者と共に参加する予定を組まれていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議時、日頃の生活を見て頂いたり、意見の交換を行ったり、アドバイスを頂いている。又、事故発生時は速やかに市へ報告を行い、連携を図っている。		運営推進会議はコロナ禍の為開催できない中、通知で日頃の様子を伝え、新型コロナウイルス感染の発症時や事故報告等においても、市に報告をするなど連携を図られていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する学習会を定期的に行い、共有している。又センター方式を活用し、アセスメントをチームで実践し、本人の思いを大切にケアを行っている。ヒヤリハットからの検証や申し送りにより、安全面でも配慮している。マニュアルがあり共有化している。		法人全体でリスクマネジメント委員会を設置し、身体拘束廃止委員会としての機能を含み、全体学習会を年間2回設けて学び、拘束なしのケアに努めていました。「関連マップ」を独自に作成して、ひとり歩きを見つけた際の連絡を受けられる連携構築にも努めていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関する施設内外での研修の参加や、定期的学習会を行っている。又、マニュアルを共有して常に入居者様中心に物事を考え、変化に気づき、随時ケアの見直しを行うようにしている。		/	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する外部研修への参加、全体学習会、施設内学習会を行い、会議で情報を伝達し共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項、契約書の内容をわかりやすく説明し、聞きたい事に対しては納得出来るように説明している。又、介護報酬改定時等書面の変更時は、個別に説明をし署名捺印を頂き、同意とご理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会、面会時等職員から声をかけ、家族との信頼関係を大切に、何でも言える雰囲気作り配慮している。随時意向の聞き取り、年1回本人や家族へのアンケート調査を行い、意見・要望等を頂き支援に活かしている。	コロナ禍で面会をお断りしていた時期もありましたが、ご家族のご希望に沿えるように工夫し、ガラス越しの面会を常時受け入れていました。事業所便りには、必ず苦情相談窓口案内を記載し、責任・担当者への連絡方法や、意見箱の常設情報も明記されていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り、カンファレンス、グループホーム会議において、職員の意見や要望、思いを聞き話し合っている。必要事項は代表者会議で検討している。又、業務を一緒に行いながら、個別に意見を聞く努力をしている。	管理者は、申し送りや定例会議等で、何でも言いやすい雰囲気づくりに努め、一緒に勤務する中でも聞き取るなど、内容によっては代表者会議に提示して、職員の意見反映に取り組みされていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人のキャリアパスや職員教育シートを活用し、面接をしながら目標を設定し、一人ひとりの仕事の意欲を把握している。又、職員の希望に極力合わせ勤務を組んでいる。休憩室を確保する事でゆったりと休憩できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ローマンうえだ職員教育プログラムに基づき、グループ別研修の実施、施設内外の研修に参加している。又、資格取得に向けての研修、内部学習会へ参加し、意欲向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症の人と家族会の広報の定期購読、地域包括ケア会議へ参加し、質の向上に繋がっている。又、法人内の施設との交流がある。事業サービス連絡会の研修等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	センター方式を用い、一人ひとりの想いに寄り添い、今までの生活の継続ができるよう、生活歴や生活習慣などを本人や御家族にお聴きしながら、安心して生活できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が求めていること、思いをしっかりと聞いて把握し、日頃の様子をお伝えしながら信頼関係づくりに努めている。又、その情報については職員間で共有をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御本人や家族の思い、状況を把握して情報を提供し、ニーズに合ったサービスに繋げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	センター方式を用い、本人の立場に立ち、思いを考え、学び、生活の中で共有しながら支えあう関係を大切にしている。買い物、散歩、家事などを一緒に楽しみながら行い、本人のできる力を発揮してもらっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の日頃の状態を随時報告し意見交換を行い、本人と家族との関係を尊重している。又、家族との情報交換、センター方式等で情報を共有し、共に本人を支えている。又、夏祭り等イベントと一緒に参加して頂き、共に支えていく関係づくりをしている(コロナ感染対策で行事が制限されている)。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近所の方の来所や自宅への外出、お墓参り、馴染みの美容院やかかりつけ医への受診等、今までの本人の生活習慣を大切に支援を行っている。	週に2、3回は散歩を実施して、ほぼ決まったコースを歩くことで、ご近所さんと親しく挨拶を交わし、面識を高めて、馴染みの関係性を構築していました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーション、食事やお茶、ドライブ、近所への散歩等気持ちをお聞きし、コミュニケーションが図れるように職員も共に過ごしている。又、入居者同士の信頼関係を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了された家族に、ボランティア(マジックショー等)をお願いするなど継続的な付き合いができるよう努めている。又、施設の行事にお招きしたりして交流を継続している(コロナ感染対策で行事が制限されている)。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを大切にしながら、家族からも意見をお聞きしている。カンファレンスで、本人にとって良い支援ができるよう話し合っている。ツールとしてセンター方式を用いながら思いを探り、支援に繋げている。	コロナ禍でしたが、親御さんの通夜に管理者と共に出向き、昔の知り合いにも会えたようです。個々の意向をチームで日々探りながら、その時々に対応に心掛けた支援に取り組んでいました。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時センター方式シートを家族に記入して頂き、お話をお聞きし、今までの生活が継続できるよう支援している。職員も協働してセンター方式の記入を行っている。守秘義務、プライバシーの保護には十分に配慮している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの生活リズムをセンター方式や申し送りを通して把握し、情報を共有し、できる事、分かることを大切に、その人全体を見てチームで支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の言動・表情から思いを探り、面会時や家族会等で家族の思いや意見を聞き、介護、看護職がカンファレンス等で意見を出し合い、センター方式を活用しながらケアプランを作成している。	入居時に家族に聞き取りを行い、今までの生活を継続し維持できるように配慮した介護計画書を作成していました。その後、定期的に本人への聞き取りを繰り返し、日々の情報を共有して職員全体で介護計画の見直しを行っていました。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルにより毎日の様子、言動、食事、排泄、身体状況を記録し、情報を職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問看護ステーションと契約し連携することで、外部の客観的な医療的視点を取り入れ、質の向上に繋げている。又、介護相談員の定期的な訪問により入居者のニーズの把握に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議で民生児童委員、自治会長、福祉推進委員、行政、地域包括、消防職員を招き、意見の交換を行っている。年2回の防災訓練では、地元消防団の参加、又地区の行事へ参加をしている。今年度は、コロナ禍のため活動が制限されている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診については家族が行い、受診前に家族情報を作成し状況をお伝えして共有を行っている。希望時には付き添いを行っている。状況に合わせ、往診の医師へ繋げている。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、現在6名ほどの方が家族の協力のもと通院し、3名往診してます。事業所では、訪問看護ステーションと契約し、週に1度の訪問を受け、個々の健康状態を把握し、通院の必要な専門医に繋げていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調不良時は看護師に報告し、指示を仰いでいる。又、訪問看護ステーションと契約をし、週1回の訪問時や体調不良時等随時報告をし、相談や処置、医療への連携に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への面会を随時行っている。医師、家族、本部と連携をとりながら連絡を密にし、入居者の現状把握に努めながら、早期の退院に向けてのアプローチを行っている。今年度は、コロナ禍のため医療機関への面会が制限されているので、情報を密に収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人や家族に、終末期に関する思いや希望を「看取りに関する意思確認書」に書いて頂いている。本人の気持ちを尊重し、事業所でできることを伝えながら、家族や医師、看護師と情報の共有をしている。	法人内の勉強会では、看取りについての内部学習会を開催し、終末期のケアにも希望に応じて実施できる体制を整えていました。ただ介護度が上がると、設備的に十分な入浴介助も出来なくなるため、家族の希望のもと同法人内の施設に異動するケースが殆どでした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	学習会などで、応急手当の初期対応等学んでいる。又、消防署と連携し、心肺蘇生法、AEDの使用法など実践力を学んでいる。マニュアルを定期的に見直している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年2回(夜間1回、水害訓練1回)入居者と共に実施。家族、地域、行政の方に訓練の様子を見てもらい、意見を頂いている。又、消火器の使用法について消防署から教えて頂いている。日常的に避難路の確認、施設まわりの掃除や学習会を実施している。	火災・地震・水害等の多様な想定訓練を計画して、7月には水害を想定した訓練を、11月には夜間を想定した訓練を実施していました。災害時に必要な非常食や備品庫を設け、緊急時対策も整備され、法人防災対策委員会を中心にBCPの作成も完了していました。	

自己	外部	項目	外部評価(評価機関記入)	
			自己評価(事業所記入) 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重した言葉かけを心掛けている。又、月1回の事例検討会の参加やグループ別の研修に参加している。個人情報の保護、守秘義務についても十分配慮している。GH会議でプライバシーについて毎月話し合っている。	個々のニーズに対応し、部屋でコーヒーを楽しむ方、お菓子や昆布茶にココアなど、個々の好みに応じた飲み物の提供に心がけたり、センサーを利用して転倒防止に配慮されるなど、個々のプライドを気づけられないような介護を展開されていました。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	散歩、買い物、近所の方との交流、食事、衣類を選んだり等、本人の意思を確認しながら行っている。意思表示困難な方は、表情や仕草、本人の好み等から思いを探っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の思いを尊重し、生活のリズムを把握して、職員が共に寄り添いながら支援している。職員一人ひとりが入居者の行きたいところ、やりたいことができる環境作りを心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	今までで使用していた物を持ってきて頂き、その方らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。又、訪問美容師さんに髪型の希望を伝え、その方らしい整容ができるよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節や地域の食材を利用し、好みを取り入れたり希望をお聞きしたりして、食事を楽しんで頂いている。又、料理を教えて頂くなど、できることを把握し、盛り付け、片づけ、皮むきなど会話をしながら共に行っている。	昼食をメインに考えた手作り料理を毎食提供して、誕生会やクリスマス会等では、ケーキを添えた特別メニューを計画し、それぞれがその時々出来る事を、職員と一緒に手伝って頂くことで、家庭的な食卓となっていました。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご飯、味噌汁以外に2~3品を提供している。又、食事、水分量を記録し、不足時には好みを取り入れたり、間食等栄養補助的に摂って頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの状況に応じて、清潔を保てるよう努めながら介助している。口腔に異常があるような時は、歯科衛生士や家族と連携し、往診や受診をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録やセンター方式を基に、排尿間隔や本人のサインを共通認識し、その都度対応している。トイレの場所が分からない方には、自尊心を大切に声掛けや対応を行っている。	排泄と睡眠を大切に考え、無理な定時排泄はせずに、個々のサインをきっかけにしたトイレ誘導を促し、自立に向けた、プライドを傷つけないような声掛けに配慮した支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	午前のお茶の時間に乳製品を取り入れたり、水分摂取量を注意したりしながら、食事献立を工夫している。又、体操や散歩など体を動かすことで予防に努めている。時間を見てトイレにお誘いしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	事前に本人へ意思確認を行い、入りたく無い時は時間や日にちをずらして入浴して頂いている。一人ひとりの入浴習慣を大切に、自分のペースで、必要に応じてリフト等使用しながら、安全に入浴できるよう支援している。	バラの香りや森の香り等の入浴剤を準備し、入浴前に選んで頂くなどお風呂を楽しんでもらえるような工夫をしたり、強い拒否がみられた場合は、その情報を職員が共有し、翌日予定の方と交換するなど、柔軟な対応に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	在宅での生活習慣や、一人ひとりの休息時間を把握し、その時の状況に合わせた支援をしている。室温や布団の調整、音・光等の環境に配慮し、安心して気持ちよく休めるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員が内容を把握し、情報を共有している。服薬時は一人ひとりに応じた対応で、確実に服薬できたか確認している。又、服薬内容変更時は申し送り等へ記録し、症状の変化や情報の共有に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を参考にし、家事や食事の手伝い、塗り絵、折り紙、新聞、本を読んだり、歌など一人ひとりの力を発揮でき、共に楽しむ、張り合いが持てるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調や気候に合わせて、散歩、ドライブ、買い物、自宅への外出など希望に沿った支援を行っている。又、家族と連携し、ドライブ、外食、買い物などに出かけられるよう支援している。今年度は、コロナ禍のため活動が制限されている。	コロナ禍でもあり、外出できる状況ではなかった事もあるが、週の半分は散歩に出かける機会を設けるなど、気分転換を図っていました。地元の方々との挨拶から交流にも繋げられると、天気の良い日には、積極的に散歩に出かけていました。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物等要望がある時は家族と相談し、社会生活に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に沿って家族に理解を頂き、電話を掛けている。又、家族からの電話の際は、スムーズにコミュニケーションが図れるよう支援している。又、年賀状等書いて頂き家族に送っている。本人持ちの携帯電話からも自由にかかけたりできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室温、湿度、外気温を毎日チェックする。冬季は加湿器等使用し、生活環境に注意している。又、季節の食材を取り入れたり、季節の花を飾ったり季節感を出している。中庭は季節を感じられるようになっている。	日当たりの良いリビングのテーブル上に色鮮やかな鉢植えの花が置かれ、その両脇に置かれたソファで数名の入居者がうたた寝をして、心地よい空間に満足されている様子が窺えました。特に冬期にはボアシートや電気毛布を使用して、布団内も心地良い環境になるように配慮されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	木造で温かみのある空間で、3箇所談話スペースがあり、ソファ、テーブルでゆっくりと寛ぐ事ができる。又、花や入居者が描いた絵画などを飾り、落ち着いた寛げる環境になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた馴染みの物が居室でも使用されている。又、家族と連携し、写真や小物など居心地良く過ごせる空間作りを目指している。	机と椅子とタンスは、準備されたものがあり、その他の馴染みの家具や写真を持ち込み、配置は自由に行っていました。広々とした部屋の真ん中で、衣類を広げたり、たたんだり、仕舞ったり繰り返している方もおられ、居心地の良い部屋となっている様子が窺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室等手摺の設置は安全に配慮している。トイレ、居室の場所が分かるよう工夫したり、夜間トイレの場所が分かるようライトアップしている。		